

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月5日

上場会社名 タカラバイオ株式会社
 コード番号 4974 URL <http://www.takara-bio.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長
 四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 仲尾 功一

(氏名) 木村 睦

上場取引所 東

TEL 077-543-7212

(百万円未満切捨)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	8,690	△2.7	△9	—	116	—	38	—
21年3月期第2四半期	8,927	—	△125	—	△103	—	△326	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	137.72	137.54
21年3月期第2四半期	△1,156.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	42,542	37,619	88.4	133,366.56
21年3月期	43,117	37,149	86.2	131,732.45

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 37,619百万円 21年3月期 37,149百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,700	△1.1	465	9.0	700	99.1	500	△22.2	1,772.56

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	282,079株	21年3月期	282,009株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	—株	21年3月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	282,019株	21年3月期第2四半期	281,928株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した予想数値は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。今後発生する状況の変化等によっては、実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。
なお、平成21年5月12日に公表した通期業績予想を修正しております。

(参考)個別業績予想

平成22年3月期の個別業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	13,502	1.9	31	△ 84.2	561	4.3	528	△ 35.2	1,873	06

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した予想数値は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。今後発生する状況の変化等によっては、実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。なお、平成21年5月12日に公表した通期業績予想を修正しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、未曾有の金融危機が峠を越え、輸出や生産の増加により景気が持ち直してまいりました。しかしながら、設備投資や個人消費の足取りは重く、プラス成長に復帰したとはいえ、景気の下振れリスクが依然として残っており、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは長年培われたバイオテクノロジーを活用し、遺伝子工学研究分野、遺伝子医療分野、医食品バイオ分野の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めました。

その結果、売上高は、遺伝子工学研究分野における研究用試薬減少の影響が大きく、前年同期比236百万円（2.7%）減少の8,690百万円となりました。売上原価は、売上高の減少に伴い前年同期比198百万円（4.6%）減少の4,110百万円となりましたので、売上総利益は前年同期比38百万円（0.8%）減少の4,580百万円となりました。販売費及び一般管理費は、研究開発費が増加したものの販売促進費や管理費の減少等により前年同期比154百万円（3.3%）減少の4,589百万円となりましたので、営業損失は9百万円（前年同期は営業損失125百万円）となりました。

為替差益の計上や持分法による投資損失の減少等により営業外損益の収支が改善いたしましたので、経常利益は116百万円（前年同期は経常損失103百万円）を計上することとなりました。

特別損益では、特別損失に固定資産除売却損40百万円を計上いたしました。前期に計上した係争和解費用引当金繰入額125百万円およびたな卸資産評価損64百万円がなくなりましたので収支が改善いたしました。

また、過年度法人税等を計上いたしましたので、法人税等合計の増加額が28百万円にとどまり、四半期純利益は38百万円（前年同期は四半期純損失326百万円）を計上することとなりました。

事業の種類別セグメントの状況および所在地別セグメントの状況は次のとおりであります。

① 事業の種類別セグメントの状況

[遺伝子工学研究分野]

バイオテクノロジー関連分野の研究開発活動がますます広がりを見せるなか、当社グループは、こうした研究開発活動を支援する製品・商品やサービスを中心に展開する当分野をコアビジネスと位置づけております。

当分野の品目別売上高の状況は、主力製品である研究用試薬の売上高は、円高の影響により前年同期比で減少いたしました。理化学機器では、質量分析装置等の大型機器の売上高増加が寄与し、前年同期比で増加いたしました。また、研究受託サービス等の売上高は、ほぼ前年同期並みとなりました。

以上の結果、当分野の外部顧客に対する売上高は7,542百万円（前年同期比95.5%）と減収となり、売上総利益も4,442百万円（前年同期比98.8%）と減少いたしました。販売費及び一般管理費は、販売促進費の減少のほか、その他の経費も効果・効率的な費用投下に努めたこと等により2,639百万円（前年同期比90.8%）と減少いたしましたので、営業利益は1,803百万円（前年同期比113.4%）と前年同期を上回りました。

[遺伝子医療分野]

当分野においては、最近の急速な細胞生物学の進歩によって基礎研究と臨床応用の距離がますます短くなり、再生医療の実用化が急速に進むなかで、遺伝子治療・細胞医療の早期商業化に注力しております。当社グループは、高効率遺伝子導入技術レトロネクチン法、高効率リンパ球増殖技術であるレトロネクチン拡大培養法およびRNA分解酵素等の自社技術を利用したアジアにおけるがんとエイズの遺伝子治療の臨床開発を進めております。

当期は、がん細胞免疫療法に関する技術支援サービスの売上高が前年同期比で増加いたしましたので、当分野の外部顧客に対する売上高は165百万円（前年同期比210.4%）と大幅な増収となり、売上総利益も64百万円（前年同期比160.2%）と増加いたしました。販売費及び一般管理費は研究開発費を中心に728百万円（前年同期比124.9%）と増加いたしましたので、営業損失は664百万円（前年同期営業損失543百万円）となりました。

[医食品バイオ分野]

当分野では、食から医という「医食同源」のコンセプトに基づき、当社グループ独自の先端バイオテクノロジーを駆使して日本人が古来常食してきた食物の科学的根拠を明確にした機能性食品素材の開発、製造および販売を行っており、ガゴメ昆布フコイダン関連製品、寒天オリゴ糖関連製品、明日葉カルコン関連製品およびキノコ関連製品等を中心に事業を展開しております。

当期は、キノコ関連製品の売上高が前年同期比で減少いたしました。ガゴメ昆布フコイダン関連製品を中心に、健康志向食品の売上高は前年同期比で増加いたしましたので、当分野の外部顧客に対する売上高は983百万円（前年同期比103.3%）と増収となりました。品目別の原価率の違いから、売上総利益は73百万円（前年同期比91.0%）と僅かに減少し、販売費及び一般管理費は運送費、研究開発費等が増加して500百万円（前年同期比113.3%）となりましたので、営業損失は427百万円（前年同期営業損失360百万円）となりました。

② 所在地別セグメントの状況

[日本]

国内は、当社における遺伝子工学分野の売上減少等により、外部顧客に対する売上高は前年同期比99.9%の5,263百万円、セグメント間売上高は前年同期比97.3%の1,140百万円となり、売上高合計は前年同期比99.4%の6,404百万円、営業利益は前年同期比63.9%の338百万円となりました。

[アジア]

アジアは、宝生物工程（大連）有限公司の売上が好調に推移し、外部顧客に対する売上高は前年同期比114.3%の1,010百万円、セグメント間売上高は前年同期比113.7%の664百万円となり、売上高合計は前年同期比114.0%の1,674百万円、営業利益は前年同期比124.7%の379百万円となりました。

[北米]

北米は、Clontech Laboratories, Inc. の売上が円高の影響により減少し、外部顧客に対する売上高は前年同期比93.2%の1,709百万円、セグメント間売上高は前年同期比95.2%の662百万円となり、売上高合計は前年同期比93.8%の2,371百万円、営業損失は137百万円(前年同期営業損失180百万円)となりました。

[欧州]

欧州は、Takara Bio Europe S.A.S. の売上が円高の影響もあって減少し、外部顧客に対する売上高は前年同期比75.1%の708百万円、セグメント間売上高は実績がありませんでしたので、売上高合計は前年同期比75.1%の708百万円、営業利益は前年同期比119.0%の96百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(財政状態に関する分析)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は42,542百万円となり、前連結会計年度末に比べ574百万円減少いたしました。この減少の主な内容は、現金及び預金の増加3,322百万円、有価証券の減少2,790百万円、受取手形及び売掛金の減少843百万円、たな卸資産の減少128百万円、有形固定資産の減少115百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は4,923百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,045百万円減少いたしました。この減少の主な内容は、支払手形及び買掛金の減少629百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、37,619百万円となり、前連結会計年度末に比べ470百万円増加いたしました。この増加の内容は、新株予約権の行使による資本金および資本剰余金の増加14百万円、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加38百万円、その他有価証券評価差額金の増加31百万円、為替換算調整勘定の増加385百万円等あります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、税金等調整前四半期純利益の計上、売上債権の減少、減価償却費(その他の償却額含む)等がありましたが、仕入債務の減少、定期預金の預入による支出、固定資産等の取得による支出により、前連結会計年度末残高に対して4,241百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には7,473百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少642百万円、法人税等の支払額87百万円等がありましたが、税金等調整前四半期純利益の計上77百万円、減価償却費(その他の償却額含む)869百万円、売上債権の減少896百万円、たな卸資産の減少163百万円等により1,056百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入1,307百万円、有価証券の売却及び償還による収入482百万円がありましたが、定期預金の預入による支出6,530百万円、有形・無形固定資産およびその他償却資産の取得による支出601百万円等により5,379百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、株式の発行による収入13百万円がありましたが、長期借入金の返済による支出13百万円、リース債務の返済による支出16百万円により16百万円の支出となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

売上高は、第2四半期連結累計期間で期初計画を370百万円（4.5%）上回りましたが、下半期はほぼ期初計画どおり推移するものと見込まれ、通期では18,700百万円と期初計画を330百万円（1.8%）上回る見込みであります。

利益面では、売上総利益が、たな卸資産廃棄損等のコストアップもあり期初計画比302百万円（△2.9%）の未達となるものの、販売費及び一般管理費は、管理費124百万円や販売促進費92百万円の減少等により、合計で期初計画比302百万円（△3.1%）の減少となる見込みであります。

この結果、営業利益は期初計画どおりの465百万円となる見込みであります。また、当社の複合的がん免疫療法の研究開発プロジェクト等に対する受取補助金を営業外収益に計上すること等により、営業外収支が改善する見込みとなりましたので、経常利益は期初計画を100百万円（16.7%）上回る700百万円となる見込みであります。

特別損失として、期初計画外の固定資産除売却損が発生いたしますが、過年度法人税等の計上により法人税等の減少が見込まれますので、当期純利益は期初計画を140百万円（38.9%）上回る500百万円となる見込みであります。

以上のことから、平成22年3月期の通期業績予想を修正するものであります。

なお、別途本日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております。

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	18,700	△1.1	465	9.0	700	99.1	500	△22.2	1,772	56

4. その他

- （1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。
- （2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- （3）四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,254	8,932
受取手形及び売掛金	3,970	4,814
有価証券	4,765	7,555
商品及び製品	2,045	2,255
仕掛品	319	274
原材料及び貯蔵品	793	757
その他	1,099	1,133
貸倒引当金	△36	△46
流動資産合計	25,212	25,676
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,242	8,149
減価償却累計額	△4,431	△4,236
建物及び構築物（純額）	3,810	3,913
機械装置及び運搬具	7,005	6,936
減価償却累計額	△5,084	△4,993
機械装置及び運搬具（純額）	1,920	1,943
工具、器具及び備品	4,747	4,751
減価償却累計額	△3,643	△3,601
工具、器具及び備品（純額）	1,103	1,150
土地	4,614	4,613
リース資産	102	100
減価償却累計額	△18	△7
リース資産（純額）	83	92
建設仮勘定	106	40
有形固定資産合計	11,639	11,754
無形固定資産		
のれん	1,977	1,950
その他	898	926
無形固定資産合計	2,876	2,877
投資その他の資産	2,814	2,809
固定資産合計	17,330	17,441
資産合計	42,542	43,117

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	802	1,432
短期借入金	45	45
未払法人税等	103	146
引当金	305	266
その他	1,571	1,899
流動負債合計	2,828	3,789
固定負債		
長期借入金	441	455
退職給付引当金	1,048	993
その他	604	728
固定負債合計	2,094	2,178
負債合計	4,923	5,968
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,047	9,040
資本剰余金	26,974	26,967
利益剰余金	2,403	2,364
株主資本合計	38,425	38,373
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	141	109
為替換算調整勘定	△946	△1,332
評価・換算差額等合計	△805	△1,223
純資産合計	37,619	37,149
負債純資産合計	42,542	43,117

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	8,927	8,690
売上原価	4,309	4,110
売上総利益	4,618	4,580
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	886	863
研究開発費	1,430	1,502
引当金繰入額	161	156
その他	2,266	2,067
販売費及び一般管理費合計	4,744	4,589
営業損失(△)	△125	△9
営業外収益		
受取利息	76	45
為替差益	—	69
運送費相手先負担額	29	—
その他	30	16
営業外収益合計	136	131
営業外費用		
支払利息	5	4
為替差損	80	—
持分法による投資損失	19	—
その他	8	1
営業外費用合計	114	6
経常利益又は経常損失(△)	△103	116
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	7	—
貸倒引当金戻入額	—	0
補助金収入	—	0
その他	0	—
特別利益合計	8	1
特別損失		
固定資産除売却損	29	40
たな卸資産評価損	64	—
係争和解費用引当金繰入額	125	—
特別損失合計	219	40
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△313	77
法人税、住民税及び事業税	152	160
過年度法人税等	—	△63
法人税等調整額	△141	△57
法人税等合計	10	39
少数株主利益	1	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△326	38

(第2四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
売上高	4,941	4,838
売上原価	2,534	2,314
売上総利益	2,406	2,524
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	443	437
研究開発費	747	751
引当金繰入額	78	83
その他	1,129	1,021
販売費及び一般管理費合計	2,398	2,293
営業利益	8	230
営業外収益		
受取利息	41	20
為替差益	—	5
運送費相手先負担額	15	—
その他	17	8
営業外収益合計	74	34
営業外費用		
支払利息	2	2
為替差損	68	—
持分法による投資損失	9	—
その他	3	0
営業外費用合計	85	3
経常利益又は経常損失(△)	△2	261
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	7	—
貸倒引当金戻入額	—	9
その他	1	1
特別利益合計	10	10
特別損失		
固定資産除売却損	19	27
係争和解費用引当金繰入額	125	—
特別損失合計	144	27
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△137	244
法人税、住民税及び事業税	79	61
法人税等調整額	△57	21
法人税等合計	22	83
少数株主利益	1	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△160	161

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△313	77
減価償却費	664	626
その他の償却額	285	242
のれん償却額	71	72
貸倒引当金の増減額(△は減少)	10	△11
その他の引当金の増減額(△は減少)	213	92
受取利息	△76	△45
支払利息	5	4
持分法による投資損益(△は益)	19	—
固定資産除売却損益(△は益)	28	40
売上債権の増減額(△は増加)	1,071	896
たな卸資産の増減額(△は増加)	16	163
仕入債務の増減額(△は減少)	△10	△642
その他	△397	△427
小計	1,589	1,090
利息及び配当金の受取額	84	55
利息の支払額	△3	△3
法人税等の支払額	△311	△87
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,358	1,056
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△372	△6,530
定期預金の払戻による収入	255	1,307
有価証券の売却及び償還による収入	—	482
有形及び無形固定資産の取得による支出	△351	△543
その他償却資産の取得による支出	△68	△58
関係会社株式の取得による支出	△23	—
関係会社株式の売却による収入	75	—
その他	8	△38
投資活動によるキャッシュ・フロー	△477	△5,379
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△13	△13
株式の発行による収入	35	13
リース債務の返済による支出	△10	△16
セール・アンド・リースバック取引による収入	18	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	29	△16
現金及び現金同等物に係る換算差額	△105	98
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	805	△4,241
現金及び現金同等物の期首残高	15,469	11,715
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,274	7,473

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)					
	遺伝子工学研究 (百万円)	遺伝子医療 (百万円)	医食品バイオ (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	7,897	78	951	8,927	—	8,927
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	0	0	(0)	—
計	7,897	78	951	8,927	(0)	8,927
営業利益又は営業損失(△)	1,590	△543	△360	686	(811)	△125

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)					
	遺伝子工学研究 (百万円)	遺伝子医療 (百万円)	医食品バイオ (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	7,542	165	983	8,690	—	8,690
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	0	—	0	0	(0)	—
計	7,542	165	983	8,691	(0)	8,690
営業利益又は営業損失(△)	1,803	△664	△427	711	(720)	△9

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品・サービスの種類・特性などを考慮して、遺伝子工学研究、遺伝子医療、医食品バイオの3事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
遺伝子工学研究	試薬（遺伝子工学用、蛋白質工学用、細胞工学用、糖生物工学用）、理化学機器、研究受託サービス、遺伝子工学研究関連特許実施許諾対価料
遺伝子医療	遺伝子導入関連製品、遺伝子治療用材料、研究受託サービス、遺伝子医療関連特許実施許諾対価料
医食品バイオ	キノコ（ハタケシメジ、ホンシメジ）、ブナシメジ特許実施許諾対価料、バイオ医食品（ガゴメ昆布フコイダン関連製品、寒天オリゴ糖関連製品、明日葉カルコン関連製品）

3. 会計処理の方法の変更

前第2四半期連結累計期間

（棚卸資産の評価に関する会計基準）

第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益が遺伝子工学研究事業で9百万円減少し、医食品バイオ事業で1百万円減少しております。（連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い）

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号平成18年5月17日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益が遺伝子工学研究事業で63百万円減少しております。

4. 追加情報

当第2四半期連結累計期間

（「運送費相手先負担額」の計上方法の変更）

従来、顧客から受領した運送費は営業外収益の「運送費相手先負担額」として計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、運送業者へ支払った運送費と当該金額を相殺し、純額で、販売費及び一般管理費（運送費）として計上しております。これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益が遺伝子工学研究事業で21百万円増加しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）の所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)						
	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	5,268	884	1,833	942	8,927	—	8,927
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,172	584	695	—	2,452	(2,452)	—
計	6,440	1,468	2,528	942	11,379	(2,452)	8,927
営業利益又は 営業損失(△)	530	304	△180	81	735	(861)	△125

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）の所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)						
	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	5,263	1,010	1,709	708	8,690	—	8,690
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,140	664	662	—	2,467	(2,467)	—
計	6,404	1,674	2,371	708	11,158	(2,467)	8,690
営業利益又は 営業損失(△)	338	379	△137	96	678	(687)	△9

(注) 1. 国又は地域は、地理的接近度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

アジア・・・中国、韓国

北米・・・米国

欧州・・・フランス

3. 会計処理の方法の変更

前第2四半期連結累計期間

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益が日本で11百万円減少しております。

(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号平成18年5月17日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益が北米で63百万円減少しております。

4. 追加情報

当第2四半期連結累計期間

(「運送費相手先負担額」の計上方法の変更)

従来、顧客から受領した運送費は営業外収益の「運送費相手先負担額」として計上していましたが、第1四半期連結会計期間より、運送業者へ支払った運送費と当該金額を相殺し、純額で、販売費及び一般管理費（運送費）として計上しております。これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益が欧州で21百万円増加しております。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）の海外売上高は、次のとおりであります。

	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
I 海外売上高	1,056	1,945	968	11	3,982
II 連結売上高					8,927
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	11.8	21.8	10.9	0.1	44.6

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）の海外売上高は、次のとおりであります。

	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
I 海外売上高	1,167	1,654	721	4	3,548
II 連結売上高					8,690
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	13.4	19.0	8.3	0.1	40.8

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

アジア・・・中国、韓国、台湾他

北米・・・米国、カナダ

欧州・・・フランス、ドイツ、イギリス他

その他・・・オセアニア、アフリカ

3. 海外売上高は、連結財務諸表提出会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

(1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
遺伝子工学研究分野		
研究用試薬	2,519	79.2
研究受託サービス	753	98.5
その他	23	140.7
計	3,296	83.2
遺伝子医療分野	74	374.7
医食品バイオ分野	882	115.8
合計	4,253	89.7

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入実績

当第2四半期連結累計期間の仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
遺伝子工学研究分野		
研究用試薬	543	161.1
理化学機器	739	78.9
研究受託サービス	9	71.3
その他	245	137.4
計	1,538	104.9
遺伝子医療分野	56	171.4
医食品バイオ分野	132	97.8
合計	1,728	105.6

- (注) 1. 金額は、仕入価格によっております。
2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

遺伝子工学研究分野において研究受託サービスを行っていることから、一部受注生産を行っておりますが、ほとんどの場合生産に要する期間が短いこと、かつ、受注残高が僅少であることから記載を省略しております。

(4) 販売実績

当第2四半期連結累計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
遺伝子工学研究分野		
研究用試薬	5,192	92.2
理化学機器	1,224	106.8
研究受託サービス	692	94.0
その他	431	113.0
計	7,542	95.5
遺伝子医療分野	165	210.4
医食品バイオ分野	983	103.3
合計	8,690	97.3

- (注) 1. セグメント間の内部売上高は除いて記載しております。
2. 金額には、消費税等は含まれておりません。